

# 第7回山口県産業技術振興奨励賞

## 山口県知事賞

### 株式会社サンポリ

所在地 防府市

業種 プラスチック製品製造業

代表者 代表取締役社長 かしま えいいちろう 鹿嶋 英一郎

代表者年齢 54歳



## 山口県知事特別賞

すぎもと のぶゆき  
杉本 信行

独立行政法人国立高等専門学校機構

宇部工業高等専門学校 名誉教授

年齢 64歳



## 受賞理由

### 「イチゴ高設栽培システム『らくラック』の開発」

従来、イチゴは露地で栽培（地床栽培）されており、株の植え付けや栽培管理、収穫等ほとんどの作業は屈んだ姿勢で行われていた。このため、作業には大きな身体的負担となっており、新規就農が敬遠されるだけでなく、既に就農している者も早期に栽培を辞めるなど担い手の減少という問題があった。

作業者の身体的負担軽減のため、棚で保持した栽培槽に培地を入れて株を植え付けるなど立位での作業を可能にする高設栽培用資材の開発が平成5年頃から各地の公設試験研究機関で始まり、県内でもイチゴ生産者により木製の栽培用資材の開発が試みられたが、耐久性の点で依然として問題があった。

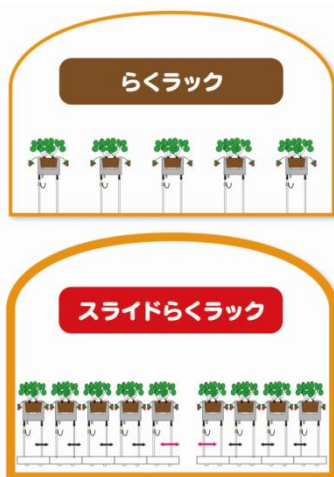
そこで当社は、主要部材を再生プラスチックとする、軽量で耐久性を有する固定式高設栽培用資材「らくラック」を開発した。

この資材により、作業者の負担は軽減され、従来の固定式資材に比べて組立の簡易化による初期投資額の低減も可能になった。

また、宇部工業高等専門学校（当時）の杉本教授（当時）との連携の下、固定式資材を基に強度を保ちながら部材コスト削減とさらなる軽量化を図りつつ、栽培棚を人力で水平移動可能な構造に改良した。

これにより、ハウス内の作業通路用空間を1カ所に集約し、イチゴ栽培用の空間を新たに増やすことで、従来に比べて約1.8倍の栽植本数を確保するとともに、効率的な暖房方式も採用することで収穫量当たりの消費エネルギー量を5割程度削減することが可能になった。

現在は、山口県内を中心に全国各地の生産者で導入されているほか、県内では製品を活用して生産したイチゴを使った新商品開発等の6次産業化に向けた取組が展開されている。



●らくラック（固定式）

●スライドらくラック

●システムの概略